

京都伝統文化の森推進協議会 平成20年度事業実績報告

京都伝統文化の森推進協議会は、本市において最も文化的価値の高い地域のひとつである東山において、森づくりを通じて、京都に根付いた自然との共生を基本とする日本の文化を全国に発信することを目的に、東山風景林の有する文化的価値について、情報を整理し、ホームページやイベント等において伝達する、文化的価値発信事業に取り組むとともに、長期的な森林づくりの方向を議論し、具体的な森林整備を行う、森林整備・景観対策事業に取り組みました。

○ 協議会各種会合の開催

名 称		日 時	場 所	参 加 者
京都伝統文化の森推進協議会 「専門委員会」	第1回	平成20年7月16日	職員会館かもがわ	13名
	第2回	平成21年1月16日	職員会館かもがわ	17名
京都伝統文化の森推進協議会「役員会」		平成20年7月25日	職員会館かもがわ	9名
京都伝統文化の森推進協議会「総会」		平成20年8月11日	ホテル ルビノ京都堀川	60名

○ 文化的価値の発信、活動のPR等

- ・協議会ホームページの運営 (<http://www.kyoto-dentoubunkanomori.jp>)

- ・水都おおさか森林の市2008への出展

日 時：平成20年10月11日（土）、12日（日）

場 所：近畿中国森林管理局周辺（大阪市）

参加者：約400名

内 容：協議会の活動内容を広く一般に知ってもらうため、東山の現状や協議会の概要、サポーター・活動協力団体の紹介等に関するパネル展示やクイズの出題を行った。

○ 森林整備・景観対策事業等

- ・東山森林セミナー

	日 時	講 師	テ ー マ	参加者
第1回	平成20年9月5日	京都府立大学大学院 教授 田中 和博 氏	東山の森林の現状と市民 の意識	60名
第2回	平成20年11月7日	森林総合研究所 地域研究監 黒田 慶子 氏	里山の健康を保つにはど うすれば良いのか	50名
第3回	平成21年1月23日	京都精華大学 教授 小椋 純一 氏	絵図などから辿る東山の 森林の変遷について ～江戸時代から現在まで～	50名

・イベント

名称	日時	場所	内容	参加者
マツ林再生に向けた現地検討会	平成 20 年 5 月 21 日	銀閣寺山国有林	平成 19 年度に実施されたマツ林再生に向けた施業実施結果の確認	19 名
カシノナガキクイムシ被害木処理作業の見学会	平成 20 年 6 月 11 日	高台寺山国有林	被害の状況やその駆除方法、処理した材のその後などの説明と現地作業の見学	17 名
東山クリーン作戦	平成 20 年 11 月 16 日	東山国有林	東山山頂公園周辺の清掃活動	30 名
東山薪割プロジェクト	平成 20 年 12 月 19 日	東山国有林	カシノナガキクイムシ（以下、カシナガ）の被害により枯死した樹木を薪にして活用	40 名
斧入式	平成 21 年 3 月 2 日	高台寺山国有林	試験的なシイやヒノキの間伐	50 名

・平成 20 年度清水山国有林林相改善事業

実施期間：平成 21 年 2 月から平成 21 年 3 月

委託先：計画立案及び監理 特定非営利活動法人森林再生支援センター
改善事業の実施 加藤造園株式会社

内 容：清水山国有林の西斜面にあるコジイ、ヒノキを主な構成樹種とする放置林分 3 箇所において、景観と治山に配慮し、四季感と共に植生の安定度が高い森林へ誘導するため、小規模な高木伐採と樹下植栽を行った。詳細については、別紙のとおり。

平成 20 年度清水山国有林林層改善事業

3 箇所 (a, b, c 地点) の林分の状況に合わせて、施業を実施した。

- a 地点 場 所：清水寺子安の塔の東側（斜面中腹）
施業前の状況：ほぼ同齢のコジイ，ヒノキによって林冠が閉鎖し，後継木の生育が困難な状況であった。
目 的：多様性のある植生と景観への転換
間 伐 木：コジイ 5 本
植 栽 木：モミ 6 本，ツクバネガシ 6 本，カスミザクラ 6 本
ウワミズザクラ 2 本，イロハモミジ 9 本
経過観察：全ての苗木が順調に活着，生育している。
- b 地点 場 所：清水寺奥の院の南東側（斜面中腹）
施業前の状況：表層土の崩壊圧力が加わりやすい地形であるとともに，コジイとヒノキによって林冠が閉鎖し，下層は土壌緊縛力が大きくなく，高木にならない樹種ばかりの状況であった。
目 的：景観改善とともに斜面の安定を図る。
間 伐 木：コジイ 3 本，ヒノキ 6 本，シロバイ 3 本，ヒサカキ 3 本，サカキ 6 本，カナメモチ 2 本，リンボク 1 本
植 栽 木：イロハモミジ 9 本，アオハダ 3 本，タムシバ 6 本
コシアブラ 9 本，アカガシ 9 本，ウワミズザクラ 4 本
経過観察：アカガシが 1 本のみ衰弱しているが，他は全ての苗木が順調に活着，生育している。
- c 地点 場 所：清水寺奥の院の南東側（斜面中腹）
施業前の状況：ヒノキが優占する林分で，間伐を経験しているが過密状態で，林冠が閉鎖した状況であった。
目 的：間伐及び除伐等によってヒノキの大径木化を図る。
間 伐 木：ヒノキ 8 本
除 伐 木：サカキ，シロバイ，ヒサカキ 合計 20 本
そ の 他：ウラジロの除去

施業箇所位置図

